

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	地域経済学 (Regional Economics) 372052-14120				担当教員	鯉江 康正 (コイエ ヤスマサ)			
科目区分	専門科目	必修・ 選択区分	必修	単位 数	2	配当年次	2年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL								

① 授業のねらい・概要
地域経済学は経済理論を基礎とする経済学の応用分野である。都市経済学が主として都市問題を扱うのに対して、地域経済学では都市や農村を含めた地域の問題を幅広く扱う。本講義では土地・住宅問題と交通問題に焦点を当て、地域がどのような課題に直面し、それをどのようにして克服しようとしてきたかを解説し、地域問題を解決するための手がかりを習得することを目標とする。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
専門的知識・技能を活用する能力を養う。
③ 授業の進め方・指示事項
授業で説明した事項について、長岡市や他の地域を訪問した時に自ら体感し、理解と興味を深めること。また、学修状況を確認するために、課題の提出を求める。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安
(i) 住宅と産業の立地が、地代との関連において、どのようにして決まるのかを理解したうえで、産業が住宅立地に与える影響を説明できる。
(ii) 住宅問題を解明するために、需給均衡モデルと不均衡モデルを説明でき、さらに、住宅地の衰退と再開発について説明できる。
(iii) 供給側の住宅政策と需要側の住宅政策を理解したうえで、日本の住宅政策を知り、その影響を説明できる。
(iv) 交通問題（交通手段選択の問題、交通混雑の問題、交通投資の問題）について理解し、それらへの対応方法を説明できる。
⑥ テキスト（教科書）
テキストは使用しない。授業時間にレジュメを配布する。
⑦ 参考図書・指定図書
宮尾尊弘（1995）『現代都市経済学 第2版』日本評論社（ISBN 4-535-55020-4）

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 住宅と産業の立地	住宅と産業の立地について、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している	住宅と産業の立地について、資料等に頼らず説明できる	住宅と産業の立地について、資料等を見ながら説明できる	住宅と産業の立地について、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	住宅と産業の立地について、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(ii) 住宅問題	住宅問題について、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた学修成果を示している	住宅問題について、資料等に頼らず説明できる	住宅問題について、資料等を見ながら説明できる	住宅問題について、資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	住宅問題について、資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(iii) 住宅政策	住宅政策について、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた分析もできる	住宅政策について、各内容・目的・課題を資料等に頼らず説明できる	住宅政策について、各内容・目的・課題を資料等を見ながら説明できる	住宅政策について、各内容・目的・課題を資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	住宅政策について、各内容・目的・課題を資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない
(iv) 交通問題	交通問題について、資料等に頼らず説明でき、授業内容を越えた分析もできる	交通問題について、各内容・目的・課題を資料等に頼らず説明できる	交通問題について、各内容・目的・課題を資料等を見ながら説明できる	交通問題について、各内容・目的・課題を資料等を見ながら、さらに教員等の支援を受けて説明できる	交通問題について、各内容・目的・課題を資料等を見ても、教員等の支援を受けても説明できない

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合	50%		20%			30%		100%
(i) 住宅と産業の立地	13%		5%			8%		26%
(ii) 住宅問題	13%		5%			8%		26%
(iii) 住宅政策	11%		5%			6%		22%
(iv) 交通問題	13%		5%			8%		26%
フィードバックの方法	課題は採点して模範解答を添付し返却する。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
取り上げたトピックスに対する興味を深める意味でも、自分ならばどうするかを考える機会を増やしていくと共に、課題を出すことによって、学生の理解度を高めていく。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	オリエンテーション 産業と住宅の立地①（産業立地）	地域における産業立地を地代との関連から理解する。	60分
2	産業と住宅の立地②（住宅立地）	地域における住宅立地を地代との関連から理解する。	60分
3	産業と住宅の立地③（産業と住宅の同時立地）	地域における産業と住宅の同時立地を地代との関連から理解する。	60分
4	産業と住宅の立地④（住宅が産業から受ける影響分析）	産業がもたらす外部不経済や公共による土地利用規制政策の影響を理解する。課題の提出。	90分
5	住宅問題①（日本の住宅問題）	住宅価格に影響する要因と日本における住宅問題を理解する。	60分
6	住宅問題②（住宅の需要と供給：需給均衡モデル）	住宅に関する需給均衡モデルを理解する。	60分
7	住宅問題③（住宅の需要と供給：不均衡モデル）	不均衡モデルを理解し、日本における住宅問題を解明する。	60分

8	住宅問題④（住宅の衰退と再開発）	住宅の衰退と再開発について、欧米型と日本型の違いを理解する。課題の提出。	90分
9	住宅政策①（都市住宅政策の概観）	所得分配政策と資源配分政策を概観し、家賃統制政策の影響を理解する。	60分
10	住宅政策②（供給側の住宅政策）	公共住宅政策、都市再開発政策の概要を知り、その影響を理解する。	60分
11	住宅政策③（需要側の住宅政策）	所得移転・家賃補助政策、持ち家助成政策、人口流入抑制政策の概要を知り、その影響を理解する。	60分
12	住宅政策④（日本の住宅政策）	家賃統制令と借地借家法、公営・公団住宅政策、持ち家助成政策の概要を知り、その影響を理解する。課題の提出。	90分
13	交通問題①（交通手段選択）	交通手段の選択と需要についてモデルを把握し、交差弾力性が影響する度合いを理解する。	60分
14	交通問題②（交通混雑の分析）	市場均衡と最適交通量の決定メカニズムを理解し、混雑解消方法を検討する。	60分
15	交通問題③（交通投資の分析）	費用便益分析を理解する。さらに、価格設定について限界費用原理とフルコスト原理の違いを理解し、その運用と留意点を把握する。課題の提出。	90分

⑫ アクティブラーニングについて	
知識定着・確認型ALを採用する。毎回の講義で質問感想シートを配布し、次の講義の最初にそれに対する解説を行い、学生の理解度を高めていく。	

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	
前職の民間シンクタンクでは、「整備新幹線の経済効果分析」「道路整備の効果と評価に関する調査」「公共投資の九州地域経済に与えるインパクト分析」などの調査研究活動に従事してきた。また、「長岡市総合計画策定委員会」「長岡市都市計画マスタープラン策定委員会」「長岡版広域道路ビジョン懇談会」「長岡市住宅政策マスタープラン改定検討会議」「地域資源発信拠点整備検討委員会」などの委員を歴任している。	
実務経験と授業科目との関連性	
シンクタンクにおける経験や審議会の委員の経験から、各テーマについて多くの具体例を説明できる。とりわけ、総合計画や都市マスタープランを題材にした長岡市の現状紹介、「交通問題」や「費用便益分析」においては実務でも同様の調査を多く行ってきており、その経験を踏まえた解説を行っていく。	